

【鉾山・建設系分会ホームページ】

支部・分会名	東京支部 鉾山・建設系分会
分会長	柿原利之（開46）
事務局	岡田光志（開62）令和3年9月1日より
情報	1. 鉾山・建設系分会の概要について 2. 令和4年度、令和3年度の行事ならびに報告 ●分会等行事の開催のご案内・報告、幹事の会報告 ●九州工業大学建設系同窓会について ●分会役員名簿 ●お問い合わせ・連絡先 <p style="text-align: right;">（令和4年11月21日更新）</p>

**鉾山・建設系分会は、我が国の市民生活・経済産業活動を支える
社会資本の整備に取り組む建設技術者の集まりです。**

1. 鉾山・建設系分会の概要について

鉾山・建設系分会は一般社団法人明専会の支部の一つ（在京の他の5分会と一体となって東京支部を構成して、連携をとっています）で、下記の、我が国の市民生活・経済産業活動を支える社会資本の整備に取り組む建設技術者の集まりです。

○明治専門学校創設以来の伝統を誇る鉾山工学科（採炭科、採炭工学科を含む）および昭和37年に改組された開発土木工学科、設計生産工学科（建設工学コース）、建設社会工学科を卒業及び同系の大学院を修了した者（下表参照）

○東京都、千葉・神奈川・埼玉の各県及びその近郊に勤務及び在住されている者
現在の会員（連絡先が確認されている方）は、昭和14年度の卒業生から平成30年度まで、約320名を数え、会員相互の交流と親睦を図り、東京支部や母校と連携して、学生育成の支援に努め母校の発展に寄与していくことを目的に活動を進めております。

分会の主な定期的な活動は、①年次総会及び新人歓迎会、②春と秋の講演会、③年数回の幹事会及び東京支部主催の各種のイベントへの参加・協力です。

最近では、会員の皆様方のご協力もあり、これらの活動への参加会員数が20名を越えるようになり、長年の悲願：参加者数20名の壁の突破することが出来ました。

さらに参加者を30名（会員の約10%）に近づけることと、平成年代の若手、女性会員の分会活動への積極的な参画を図ることを、当面の目標として努力致しております。

(参考)

鉾山・建設系学科の沿革

1907 (明治40)年	私立明治専門学校設立許可
1909 (明治42)年	私立明治専門学校(4年制) 開校 採鉱学科 設置
1921 (大正10)年	官立移管 鉾山工学科 改称
1938 (昭和13)年	採炭工学科 増設
1944 (昭和19)年	明治工業専門学校(3年制) 改称 採鉱科 改称
1946 (昭和21)年	採鉱科鉾山分科・採鉱科土木分科 設置
1949 (昭和24)年	九州工業大学 設置 (5月31日) 鉾山工学科 設置 明治工業専門学校を包括
1964 (昭和39)年	開発土木工学科 改組
1988 (昭和63)年	設計生産工学科建設工学コース 改組
1997 (平成09)年	建設社会工学科 設置
2008 (平成20)年	建設社会工学科に建築学コース 設置
2010 (平成22)年	建築学コース 学生受入開始
2012 (平成24)年	建築学コース 第1期生卒業

2. 令和4年度の行事ならびに報告

【2022年度 鉾山・建設系分会 秋季講演会 議事録】

- ・日 時：令和4年 11月 5日(土) 13:30～17:00
- ・場 所：明専会東京センター／九州工大鳳龍クラブ及びZoomによるリモート開催
- ・出席者：明専会東京センター／九州工大鳳龍クラブ13名 Web参加 8名 計 21名

分会長挨拶

- ・若い方への理解を深めること(鉾山卒業生の参加されなくなったこともあり)、を目的として、来年度、名称を「建設系分会」に変更する予定である。
- ・本日の講演会は、オリエンタル白石 俵様にプレキャストPC構造をテーマにご講演をいただく。
- ・最近の講演会は、平成時代卒業生の参加増加を期待するとともに、知り合いへの働きかけを含めて協力をいただきたい。

1. 秋季講演会 13:30~15:00

演 題：プレキャストPC床版の継手部にエンドバンド鉄筋を用いた
鋼道路橋RC床版の取替え工法の紹介

講 師：オリエンタル白石（株）本社 技術研究所 俵道和氏（設建H10）

講演の概要は以下のとおりである。

- ・高度成長期に建設された橋はすでに供用後30年以上経過しており、経年劣化に加えて、交通量の激増や車両の大型化、凍結防止剤の散布などにより、特にRC床版の損傷が深刻な問題となっている。
- ・このRC床版の損傷に対しては、損傷度や橋の交通量に応じて、床版増厚や鋼板接着、炭素繊維接着等の補修、または、プレキャストPC床版やプレキャスト合成床版等を用いた取替が実施されている。
- ・本講演では、疲労耐久性に優れ、急速施工が可能となるプレキャストPC床版の接合部にエンドバンド鉄筋を用いたSLJスラブ（Short Lapped Joint）の特徴について説明し、SLJスラブを用いた鋼道路橋RC床版の取替え工法について紹介させていただく。

講演終了後に質疑に入った。その内容は以下のとおり。

(質問)：九州自動車道向佐野橋の床版更新工事は片方向29日間の施工とあるが、かなり工期が厳しいのではないかと。また、壁高欄と床版のプレキャスト部材は別々に施工されたのか。

(回答)：九州自動車道の事例は、上下線各方向を一体工事で実施している。直接施工に携わっていないので詳細は承知していないが、施工に関しては「橋梁と基礎」(注：「コンクリート工学」が正)に投稿した報告文があるので提供したい。また、この工事では壁高欄と床版は別々のプレキャスト部材で施工したが、最近は省力化を進めるため一体構造のものもあると聞いている。

(質問)：床版間の間詰コンクリートの養生期間で工期が左右されるのではないかと。

(回答)：このコンクリートは7日で強度が得られる早強コンクリートを使用している。昼夜間の場合は、超早強やジェットコンクリートを使用して対応している。

(質問)：高炉スラグ細骨材を使用したコンクリートは現場練りで施工したとあるが、プラントからの出荷は難しいのか。

(回答)：高炉スラグ細骨材は出荷量も少なく、材料供給の制約もあるためプラントからの出荷は、容易ではない。高炉スラグ細骨材は製造場所が近くにないとメリットが無いため、使用できる地域もある程度限定されると考えられる。

(質問)：床版の鉄筋は青色のエポキシ樹脂のものを使用しているが標準的に使用されているのか。

(回答)：この工事では技術提案で使用したと聞いている。全ての橋梁で標準では無く、凍結防止剤を使用する区間は今後、標準になる可能性がある。高炉スラグ細骨材のように耐久性を高める材料を使用すればエポキシ樹脂塗装は不要になるため、総合的な判断が必要になると考える。



講演会参加者（上段 Zoom 参加者 8 名、下段 鳳龍クラブ参加者 13 名）

2. 懇親会

- ・ 柿原会長（開 4 6）の挨拶により懇親会を開始した。
- ・ 参加者が全員・近況等を披露して会話も弾み、懇親を深めた。
- ・ 懇親会が盛り上がり予定の時間を超過したが、原田先輩（開 4 3）のご挨拶で中締めとした。

2022年度秋季講演会 出席者名簿（計 21名）

卒業年	お名前	備考	卒業年	お名前	備考
(鳳龍クラブ参加) 13名			(Zoomによるオンライン参加) 8名		
設建 H10	俵 道和	講師	開 46	勝井 秀博	
開 43	足立 二雄	幹事	開 48	森 康晴	
開 43	原田 昌秀		開 49	中川 進	
開 43	小野原 誠		開 49	三好 純一郎	
開 46	小川 皓		開 53	高木 実	
開 46	柿原 利孝	分会長	開 59	田口 智巳	
開 47	吉岡 民夫		設 H08	真柴 浩	
開 51	小郷 政弘	会計	設 H16	幸田 英司	
開 57	藤井 知秀		(以下、余白)		
開 60	田代 元司				
開 62	岡田 光志	幹事			
開 H01	江崎 純	幹事			
設 H09	黒石 真一				
(以下、余白)					

(以 上)

【 鉦山・建設系分会 幹事会（令和4年度 第2回） 議事録 】

- ・日 時：令和3年 9月 3日（土） 10：00～11：50
- ・場 所：明専会東京センター／九州工大鳳龍クラブ
- ・議 事：秋季講演会等の案内状送付、来年度の講演会の対応 他
- ・資 料：秋季講演会・東京支部講演会案内状等
- ・出席者：柿原、足立、岡田、江崎（4名）

- 作業 1. 秋季講演会・懇親会および東京支部講演会案内の発送について
- ・上記案内状等102通を封書詰めの上、発送した。
 - ・柿原会長より、ZOOMによる参加者には後日、メールアドレス届者宛、ZOOM招待メール配信する。

- 議事 1. 来年度の講演会の講師について
- ・春季講演会は大学の須藤先生に、秋季講演会は樋口様（開52）に依頼することを確認した。
2. 「シリーズ：語り継ごう！技術は人なり」について
- ・現在、第5回の山口様の編集作業中であり、平行して第6回投稿者の選定を進めることを確認した。
3. 年会費の納入方法について
- ・口座を開設し（小郷幹事対応）、この口座に年会費を振り込むものとする。
 - ・年会費は2,000円として、振り込み手数料は分会で負担し、会員の納入機会を広げることを確認した。
4. 分会名称変更について
- ・東京支部、本部を含めて分会名称の変更に関する調整を柿原会長が進めている。
 - ・来年度から、今年度の総会で合意を得た建設系分会に名称を変更する予定である。
5. その他
- ・インタビューシリーズ(6)にご対応いただいた、関東学院 規矩理事長、インタビュアーの箭内さんを交えたお礼の会を検討する。

(以 上)

【 2022年度 鉦山・建設系分会 総会・春季講演会・新人歓迎会 議事録 】

- ・日 時：令和4年 6月11日(土) 10:40～15:30
- ・場 所：明専会東京センター／九州工大鳳龍クラブ
- ・出席者：11名 ただし、幹事不手際でZoom接続ができず予定をしていた14名の参加がかなわなかった。
(別表に参加者を掲載)
- ・資 料：鉦山・建設系分会 2022年度 総会資料

分会長挨拶

- ・伊東先生の遠路ご出席とご講演に謝意。
- ・コロナ禍の影響は続いているが、会場での参加者に謝意
- ・Zoom接続が不調で、開始が遅れるとともに、Web参加予定者の出席が叶わずお詫びする。
- ・コロナ禍の影響もあるが、最近では参加者が減少傾向であり、平成以降の卒業者の参加を模索しているが、企業幹事を含めて引き続き地道な取り組みを続けたい。
- ・終身会員制度が設けられた。総会参加補助を含めてメリットがあるので、制度利用をご検討いただきたく。

1. 総 会 10:40～11:20

分会長が議長につき、資料により審議を進め、下記のように議決された。

1. 令和 3年度 活動報告

新型コロナウイルス感染症の全国的な流行が続き、明専会本部・支部・分会の多くの行事は対面と再とリモート方式を併用しながら活動を再開し、分会でも秋季講演会をリモート併用方式で開催した。今後もこのように活動したい。

令和 3年度 会計報告

議案1. 2021年度 活動報告平及び会計報告・会計監査報告について
原案どおり承認された。

議案2. 2022年度 活動計画(案)及び収支計画(案)について
原案どおり承認された。

報告1. 鳳龍クラブ賛助会員について
議長より現状の報告。引き続き分会で2口対応する。

報告2. 総会等案内の郵送について
議長より現状の報告。

議案3. 分会名の変更について

卒業生の大半が建設系の卒業生になる一方、鉱山学科卒業生の参加も見込めない状況である。分会名の名前は議論の余地があるが、今後の分会の運営も考慮して、分会名を原案どおり、「鉱山・建設系分会」から、「建設系分会」に変更することが承認された。

その他1. 「シリーズ：語り継ごう！技術は人なり」の今後について

3回目の掲載を終え、4回目の掲載に向けて準備を進めており定着してきた。今後も引き続き継続していき、後輩へのエールを含めての協力を要請した。

その他2. オンライン開催に伴う会費の納入方法について

コロナ禍の影響でオンライン開催が定着する一方で、分会費の徴収が難しく、財源も厳しくなっている。銀行口座の開設を含めて最適な方法を継続して検討する。

2. 春季講演会 11:20~13:00

演題：生態系・風土を活かすランドスケープデザインと地域づくり

講師：九州工業大学大学院 教授 伊東 啓太郎 氏

講演の概要は以下のとおりである。

- ・旅や日常生活のなかでさまざまなランドスケープ（風景/景観）に出会います。ランドスケープが人々の暮らしを体現したものであると考え、地域のランドスケープの中の樹木、水辺、森、海辺といった、ひとつひとつの風景に気を配り、その土地の特徴や風土性をデザインに結びつけ、活かしてゆくことが求められる。
- ・自然資本を賢く利用し、社会と経済に寄与する国土形成手法をグリーンインフラと呼びます。近年、このグリーンインフラとしてのランドスケープ保全の重要性が指摘されている。
- ・この概念を先進的に議論し活用してきた EU では、「戦略的に計画・維持され、生態系サービスの提供と生物多様性の保全に資する質の高い自然や半自然生態系のネットワーク」をグリーンインフラと定義している。
- ・ランドスケープエコロジー（景観生態学）は、陸域や水域を含むランドスケープを科学的に分析、評価し、土地利用、地域計画やデザインに役立てていく学問領域です。九工大の設計・研究グループは、この中で特に地域の特性を活かしたランドスケープのデザインに取り組んできた。
- ・地域のデザインを行っていく際、「その土地らしさ」、Vernacular（英）、Milieu（仏）といった国ごとにニュアンスの違いがありながらも近い概念である「風土性」をいかに捉え直し、デザインに取り込んでいくかという重要な課題がある。
- ・特徴的な地域やランドスケープは、そのままでも人を惹きつけ、守られる可能性が高くなる。
- ・課題は、身近にある日常の風景を、歴史や地域の風土のなかにどのように位置づけ、育ててゆくかにある。地域性や風土を活かした地域計画には、身近な自然資源の利用・管理のあり方など、

- 自然と人との関わりを考えながら、守りながらときには創り、育ててゆくことが重要になる。
- ・ランドスケープデザインの役割は、過去から現在、未来に向けた歴史、文化、環境の姿を翻訳し、デザインとして繋ぎ、表現していくことであり、今後、ランドスケープの計画・設計を行っていく際、生態学、土木工学、景観生態学、ランドスケープデザイン、建築など複数の専門家の協働により、グリーンインフラを含めたこれからの都市・地域デザインのありかたについて深い議論ができれば、地域の風土に根ざした豊かな地域景観の保全・創造が可能となる。
 - ・これから、地域の環境保全手法や優れた地域計画、グリーンインフラのデザインを考えてゆく場合、里山、河川、都市、地域の自然や文化を含んだ風土性のもつ課題を再考し、実践にとりいれてゆくことが重要になり、民間、行政機関との連携に加えて、生態学、土木工学、景観生態学、ランドスケープデザイン学、建築学分野の協働が必要となる。
 - ・九工大で院生・学生と協働しながら、地域のランドスケープ設計の実践を行ってきたプロセスを紹介し、近年執筆した著書（「景観生態学」共立出版 2022、Urban Biodiversity and Ecological Design for Sustainable Cities, Springer 2021）をもとに グリーンインフラ、ランドスケープを設計対象にする際、風土性を考慮したデザインの実践と課題も紹介する。
 - ・最近、世の中の動きが激しく、10年後には都市の姿も大きく変容すると考える。

先生のご講演の後、先生の研究内容や学科の現況に関して、活発な質疑応答が行われた。

(質問)：就職先の状況はどうか。

(回答)：ゼネコン2割、地方自治体や設計コンサル（東京へ行く者も多い）も多く、国土交通省に就職するものもいる。卒業生の活躍もあり、就職状況は良い。

(質問)：ランドスケープデザインと土木インフラの融合を進められているがどのような状況か。

(回答)：河川や道路で進めている。両構造物とも基準が厳格で決められた中での対応となるので、調整も多い。

(質問)：研究室の状況はどうか。

(回答)：最近、研究室の20周年記念会を開催した。卒業生は100人を超えているが、約半数が会に参加し、縦のつながりもある。

(質問)：ガーデニングで植えた木が大きくなり困っているがどう対処すれば良いか。

(回答)：自然界だと淘汰があって更新が進むが、人工栽培だとそのような状況にはならない。いろいろな意見があるが、環境適用と考え植え替えで対応しても良いと考える。

(質問)：グリーンインフラは完成後、維持管理が必要と考えるがどうか。

(回答)：ご指摘のとおりランドスケープは時間が必要なため、完成後の監視が不可欠である。国や地方自治体や自治体は担当者が短期間で変わるが、担当者によって考え方が異なり、維持管理の注力も異なることが多い。

(質問)：維持管理にはシルバー人材を活用して費用を軽減してはどうか。

(回答)：その通りであり、場所によっては活用して大いに貢献いただいている。

3. 懇親会 13:00～15:30

- ・柿原会長（開46）の挨拶により懇親会を開始した。
- ・参加者が全員、着席順に抱負・近況等を披露して会話も弾み、懇親を深めた。
- ・懇親会が盛り上がり予定の時間を超過したが中締めとした。

2022年度総会 春季講演会 出席者名簿（11名+Zoom参加申し込み者14名）

鳳龍クラブ参加者			Zoom参加申込者（接続不良のため参加できず）			
卒業年	お名前	備考	卒業年	お名前	卒業年	お名前
-	伊東 啓太郎	講師	開41	加藤 武	設H08	真柴 浩
開41	足立 二雄	幹事	開45	安田 進	設H16	木内 大介
開41	西岡 康博		開46	勝井 秀博	建社H28	武田 知秀
開42	鶴田 秀典		開46	宗像 敏男		
開43	原田 昌秀		開46	吉田 茂		
開43	矢田 崇雄		開47	吉岡 民夫		
開46	柿原 利孝	分会長	開48	森 康晴		
開50	樋口 孝憲		開59	田口 智己		
開51	小郷 政弘	会計	開63	明本 守正		
開57	藤井 智秀		開H01	江崎 純		
開62	岡田 光志	幹事	設H04	李 孟東		



(以上)

【 鉦山・建設系分会 幹事会（令和4年度 第1回） 議事録 】

- ・日 時：令和4年 3月26日（土） 11：00～12：20
- ・場 所：明専会東京センター／九州工大鳳龍クラブ
- ・議 事：総会等資料の送付作業、分会名変更 他
- ・資 料：分会総会・春季講演会、東京支部講演会案内状、鳳龍クラブ賛助会員入会のお願い他
- ・出席者：柿原、足立、小郷、岡田、江崎（5名）

作業 1. 分会総会・講演会・懇親会、東京支部講演会案内の発送について

- ・上記案内状等100通を封書詰めの上、発送した。
- ・会長より、後日、メールアドレス届者宛、メール配信する。
- ・後日、総会の案内を分会のホームページに掲載する。

議事 1. 分会名の変更

- ・時代の経過と共に建設系の卒業生が増えたこと（鉦山卒業生の参加が無いこと）から、分会名を「建設系分会」に変更し、今年度の総会で審議することを確認した。

2. 代議員候補者の選出

- ・今年度、新たに分会より代議員候補者1名を選出する必要があり、江崎幹事で調整した。

3. アーカイブの意見照会について

- ・企画委員会より意見照会のアーカイブの取り扱いを議論した。
- ・当分会では保存するデータが少なく必要性が低いことから企画委員会に一任する方向とするが、継続審議事項とする。

4. 「シリーズ：語り継ごう！技術は人なり」の今後について

- ・3回目の掲載を終えて定着してきたので学生からの質問を受け付ける等の新たな展開を探ることを確認した。
- ・若手からの現場を含めた紹介などの議事も案として上がったが、関係先への許諾を含めて手続きに労を要することから見送るものとした。

5. オンライン開催に伴う会費の納入方法について

- ・コロナ禍の影響でオンラインが定着してきたが、一方で分会費の徴収が難しくなっていることから、会費の納入方法を検討するものとした。
- ・銀行口座の開設は審査などの制約もあることから、最適な方法を検討していくことを確認した。

6. その他

- ・今年度の秋季講演会の講師の人選を進める。

(以 上)

- ・日 時：令和3年 11月 6日(土) 13:30～15:00
- ・場 所：明専会東京センター／九州工大鳳龍クラブ及びZoomによるリモート開催
- ・出席者：明専会東京センター／九州工大鳳龍クラブ9名 Web参加 5名 計 14名
- ・資 料：無し

分会長挨拶

- ・本日の講演会は、東亜建設工業の井上様に港湾工事をテーマにご講演をいただく。
- ・本日は、コロナウイルス感染予防のため、リモートを併用しての開催である。
- ・最近の講演会は、参加者が減少しているので知り合いへの働きかけを含めて、協力をいただきたく。

1. 秋季講演会 13:30～15:00

演題：演 題：港湾土木工事の特徴と根入れ式鋼板セル工法の紹介

講 師：東亜建設工業（株） 土木事業本部 設計部 井上 博士 氏（開61）

講演の概要は以下のとおりである。

- ・港湾における土木施設には、航路や泊地などの水域施設、防波堤や護岸などの外郭施設、岸壁や栈橋などの係留施設、道路や橋梁などの臨港交通施設等も含まれるが、湾関係者が主な利用者であり、一般の人にはあまり馴染みがないが、我が国の物流の要であり重要な役割を担っている。
- ・港湾施設や作業船等を活用する港湾土木工事の概要と、最近、大水深のコンテナ岸壁で用いられた根入れ式鋼板セル工法を紹介する。
- ・これを機会に港湾土木に少しでも関心を持っていただければ幸いである。

講演終了後に質疑に入った。その内容は以下のとおり。

(質問)：港湾工事の計画・設計・施工において、民間業者の関わりは。

(回答)：港湾計画、調査、設計、施工と段階を追って事業が進められる。事業主体は国、港湾管理者である地方自治体であり、民間業者は各段階で請負ながら対応している。

(質問)：港湾工事は天候に左右され施工が困難のように思えるが、赤字工事にはならないのか。

(回答)：港湾土木工事請負積算基準が整備されそれに基づき契約が行われるため、基本的には赤字工事にならない。

(質問)：南本牧の工法比較表で、工法間の費用の差はあるのか。

(回答)：工法間の費用差は2割程度で大きな差はない。工程や構造性能（耐震性）で最終的には決定される。

- (質問)：港湾工事において測量はどのように行われているか。施工精度はどの程度か。
- (回答)：測量は陸上と変わらず、最近ではGNSSを使用している。気中は陸上と変わらない精度で測量や施工は可能だが、水中の測量は音波を使用したものに依存せざるをえず、現状、水中測位で気中なみの高い精度ものが無く技術開発が必要な分野である。陸上の施工精度がcm単位に対して港湾土木は10cm単位になる。
- (質問)：鋼板セルの胴板の曲げ方はどうするのか。
- (回答)：この工事の胴板の板厚は17mmだが、スライドで説明したとおり、面積が広いので、自重で簡単に曲がるため、曲率を合わせた加工台に載せれば所定の曲率になる。板だけだと形状が保持されないため、リブ等の補強材を取り付けて対応している。
- (質問)：これだけ構造物が大きいとアークの設置が難しいのではないかと。
- (回答)：鋼板セルは所定の位置に据え付けることができるが、中詰めを入れると変形して真円を保つことができない。アークを据え付ける前に、セルにある継手を測量して、アークの補強材を調整して設置している。
- (質問)：鋼製の構造物であるが、腐食はどれだけ考慮しているのか。孔が開くことはないのか。
- (回答)：水中部分は電気防食で、潮位の変動や飛沫のかかるところはコンクリートで被覆して対応している。電気防食は損失を考慮して計算上、片面1mmの腐食代は考慮されている。これらの対策は維持管理を行うため、孔が開くことは基本的に無いものの、船舶の衝突で損傷した場合は、鋼板の溶接やモルタル等で補修を行う予定。
- (質問)：この岸壁の耐用年数は。
- (回答)：設計上は50年となっているが、維持管理をしながらそれ以上、使用していることが多い。
- (質問)：港湾工事でICTやロボット化などの取り組みはあるのか。
- (回答)：水中バックホウの遠隔操作や、自走式の捨石均し機の実証、電気制御のグラブ浚渫船でグラブ操作をAIで学習させるという取り組みも行われている。水中での制約も多いため、技術的課題も山積している。
- (質問)：カーボンニュートラルにおいて港湾工事ではどのような取り組みが行われているか。
- (回答)：作業船や施工機械のCO2排出量について、現在、調査して整理をする段階である。他の土木工事と同様に使用材料を含めての取り組みになると考える。
- (質問)：沖縄の方で軽石漂流が問題になっているが何か対応しているのか。
- (回答)：問い合わせがあったが、軽石が浮遊しているのでポンプで吸込んで回収するのは難しく、ニュースで出ているように、バックホウで回収せざるを得ない。

2. 懇親会

- ・新型コロナウイルス感染症対策として懇親会は中止とした。

(以上)



講演会参加者（上段 Zoom 参加者 5 名、下段 鳳龍クラブ参加者 9 名）

2021 年度秋季講演会 出席者名簿（計 14 名）

卒業年	お名前	備考	卒業年	お名前	備考
(鳳龍クラブ参加) 9 名			(Zoom によるオンライン参加) 5 名		
開 61	井上 博士	講師	開 45	安田 進	
開 46	小川 皓		開 46	勝井 秀博	
開 46	柿原 利孝	分会長	開 49	三好 純一郎	
開 47	吉岡 民夫		設 H09	黒石 真一	
開 50	樋口 孝憲		設 H25	岩本 浩明	
開 51	小郷 政弘	会計	(以下、余白)		
開 58	山口 省吾				
開 62	岡田 光志	(新) 幹事長			
開 H01	江崎 純	幹事			
(以下、余白)					

鉾山・建設系分会 幹事会（令和3年度 第6回） 議事録（'21年 11/8作成）

- ・日 時：令和3年 11月 6日（土） 12：40～13：10
- ・場 所：明専会東京センター／九州工大鳳龍クラブ
- ・議 事：春季講演会の対応 他
- ・資 料：なし
- ・出席者：柿原、小郷、岡田、江崎（4名）

議事 1. 春季講演会の対応

1) 春季講演会の対応について

- ・講演会への参加者拡大のため、学生へオンライン参加を働きかけることを確認した。
- ・柿原会長より、鬼束先生に打診し話を進めることを確認した。
- ・学生が参加する場合、内容を柔らかいものにしないと理解が得られないこと、参加者が多いと話をする機会が得られないため小グループでの討論の開催等、進め方について議論した。
- ・最近、参加者が減少傾向にあるため、関係者への働きかけを行うことを確認した。

2) 令和4年度の総会・春季講演会

- ・会長より、支部内の調整により6月11日（土）になることが報告された。

議事 2. その他

- ・東京支部で分会記録等のアーカイブ化委員会が活動を行っているとのこと（小郷幹事より報告）
- ・寄稿文『シリーズ：語り継ごう！技術は人なり』の第2回目（加藤様）について、原稿と合わせ次回寄稿者の紹介の確認することを確認した。
- ・支部より幹事長の選任の要請があり、岡田幹事で登録することを確認した。

（以 上）

鉦山・建設系分会 幹事会（令和3年度 第5回） 議事録（'21年 9/19作成）

- ・日 時：令和3年 9月18日（土） 13：00～14：00
- ・場 所：明専会東京センター／九州工大鳳龍クラブ
- ・議 事：秋季講演会等の案内状送付、秋季講演会の対応
- ・資 料：秋季講演会・東京支部講演会案内状等
- ・出席者：柿原、岡田、江崎（3名）

- 作業 1. 秋季講演会・懇親会および東京支部講演会案内、『シリーズ：語り継ごう！技術は人なり』の趣意書発送について
- ・上記案内状等85通を封書詰めの上、発送した。
 - ・柿原会長より、ZOOMによる参加者には後日、メールアドレス届者宛、ZOOM招待メール配信する。
 - ・分会で使用している文章の中で、真柴幹事長の変更部分を修正する。

議事 1. その他

- 1) 秋季講演会の対応について
- ・秋季講演会の懇親会を始め、直前に開催内容を協議することを確認した。

(以 上)

鉦山・建設系分会 幹事会（令和3年度 第4回） 議事録（'21 7/24作成）

- ・日 時：令和 3年 7月 23日（金） 10：00 ～11：20
- ・場 所：Zoomによるリモート会議
- ・議 事：幹事長引継ぎ、秋季講演会について、来年度の春季・秋季講演会講師について
- ・資 料：鉦山・建設系分会幹事長引継ぎメモ（別紙1）
分会名簿210723.xls（別紙2）
東京支部Zoom接続説明書（別紙3，4）
- ・出席者：柿原、真柴、足立、小郷、岡田、江崎（6名）

議事1. 幹事長引継ぎ（別紙1～3）

- ・別紙1に従い、会社の人事異動により転勤される真柴幹事長と幹事長対応の引継ぎを行った。
- ・引継ぎの内容は以下のとおり。
 - ①会員名簿のフォローは別紙2参照。
 - ②分会活動記録のフォローは、継続して書記（岡田幹事）で対応
 - ③分会幹事会、案内送付作業の日程調整、鳳龍クラブ予約、食事手配
 - ④幹事会の議事運営
 - ⑤総会、春季・秋季講演会、懇親会の準備・運営
 - ⑥東京支部からの依頼への対応に関して、今年度中の運営委員会は真柴幹事長に対応いただく。
 - ⑦代議員（定時社員総会への出席）は、真柴幹事長に残り任期（1年超）を対応いただく。
 - ⑧分会会員への情報発信等の対応
→2020年度の秋季講演会は安田先生が講師のためメール・葉書の返信総数が70名と多かった。
参加を促すためには影響力のある方の参加や幹事からの働きが必要であることを確認した。
 - ⑨明専会Zoomの利用方法は別紙3，4参照。
- ・当面は柿原会長を中心として幹事で分担して対応すると共に、打診を行った方を含めて幹事の増員を進める。

議事2. 秋季講演会について

- ・今年度の秋季講演会については講演を依頼している東亜建設工業株式会社 井上様（開61）への確認、11月6日（土）を中心とした鳳龍クラブ会場確保は岡田幹事が対応する。

議事3. 来年度の春季及び秋季講演会の講師について

- ・春季講演会の講師は、九工大の先生から環境デザイン研究室の伊東先生（又は須藤助教）、あるいは、安田先生にご紹介いただく卒業生の大学の先生を候補として検討する。
- ・秋季講演会の講師は、先に発行された明専会報7・8月号の規矩理事長のインタビューシリーズを題材に、関係者（インタビューアーの鬼東先生、箭内様）を交えたものを検討する。

（以 上）

鉾山・建設系分会 幹事会（令和3年度 第3回） 議事録

- ・日 時：令和3年 6月12日（土） 15：40～16：00
- ・場 所：明専会東京センター／九州工大鳳龍クラブ
- ・議 事：次回以降の講演会の講師、寄稿文について
- ・出席者：柿原、真柴、足立、岡田（文責）、江崎（5名）

議事 1. 次回以降の講演会の講師について

- ・今年度の秋季講演会
東亜建設工業（株）井上様（開61）に打診中であり、後日、会長または幹事長より正式に依頼を行う。

議事 2. 寄稿文について

- ・第1回の寄稿者
西岡様（開41）にお願いするものとし、会長より正式に依頼を行う。
- ・テーマや掲載について
『シリーズ：語り継ごう！技術は人なり』とし、寄稿文の掲載は四半期に1回更新することを確認した。

(以 上)

- ・日 時：令和3年 6月12(土) 13:00～15:40
- ・場 所：明専会東京センター／九州工大鳳龍クラブ及びZoomによるリモート会議
- ・出席者：15名（別表に参加者を掲載）
- ・資 料：鉾山・建設系分会 2021年度 総会資料

分会長挨拶

- ・寺町先生のご講演、オンラインを含め参加者各位に謝意。
- ・コロナのワクチン接種も進んできているが、秋季講演会か来年の総会からは対面で実施できれば良いと考える。
- ・寄稿文『シリーズ：語り継ごう！技術は人なり』を進める。

1. 総 会 13:00～13:30

分会長が議長につき、別紙資料に基づき審議を進め、下記のように議決された。

議 事

- ① 令和2年度 活動報告および会計報告について
- ② 令和3年度 活動計画（案）および収支計画（案）について
- ③ 明専会終身会員について
- ④ 鳳龍クラブ賛助会員について
- ⑤ 総会等案内の郵送について
- ⑥ 明専会報 インタビューシリーズ：活躍する明専会員に聞く

議案1. 令和2年度 活動報告及び会計報告・会計監査報告について
原案どおり承認された。質疑無し。

議案2. 令和3年度度 活動計画（案）及び収支計画（案）について
原案どおり承認された。質疑無し。

議案3. 明専会終身会員について
議長より制度の説明。質疑無し。

議案4. 鳳龍クラブ賛助会員について
議長より現状の説明。質疑無し。

議案 5. 総会等案内の郵送について

議長より現状と対応の説明。質疑無し。

議案 6. 明専会報 インタビューシリーズ：活躍する明専会員に聞く

鬼束先生，箭内様（化 62）をインタビュアーとし、分会で事務局の対応を行った、学校法人関東学院 規矩理事長の記事の対応を説明。質疑無し。

2. 春季講演会 13:30～15:15

母校から寺町先生をお迎えして、「学科の近況と研究内容（歩車分離信号やラウンドアバウト）について」についてご講演をいただいた。講演の要旨は以下のとおりである。

- ・学科の近況として、退職（永瀬先生）を紹介いただく。
- ・近年の学科の活動はコロナの影響でほとんどできていないため、コロナ対応（遠隔講義）の紹介。また、入試の変更内容（AO入試）、就職状況などの紹介。
- ・交通関係の研究として、歩車分離信号（歩行者の不適切横断予測）やラウンドアバウト（環状交差点）の横断歩行者の安全性予測についての紹介。
- ・研究の専門性（交通）から行政の委員会に携わることが多いので、近年携わった委員会（国土交通省九州地方整備局「下関北九州道路」など）を紹介。

先生のご講演の後、真柴幹事長（設建H08）の進行で、質疑に入った。その内容は以下の通り。

（質問）：信号の制御はどこが主管で対応しているか。

（回答）：各県の公安委員会、つまり、警察が主管で対応

（質問）：近傍のIC出入口付近で車の滞留が生じて危険な場面がある。ラウンドアバウトのように右側優先にすれば良いと考えるが、警察に申し立てをすればよいのか。

（回答）：自動車交通量は2017年をピークに減少しており、警察は渋滞解消より交通安全の確保を重視している。警察は安全確保の交通制御を行っているため、交差点での自動車の滞留も生じて運転者にとって好ましくない場面あるのは否定できない。質問のようなヒアリング・ハットのような話は交通管理者である警察でなく道路管理者に話をした方が良いと思うが、道路線形は、数々の制約の中で道路構造令のぎりぎりの範囲で決定していることが多く、改変するのは難しいと考える。

（質問）：制限速度より早い速度で走行した方が交差点での信号停止がないが、この信号制御に関してご存じであれば。

（回答）：信号は系統で繊細な制御していること、交通管理では優先する路線への考え方が道路管理者と異なる見解がある等、一概には言えないところがある。

（質問）：現在の大学の男女比率はどうか。男女での成績の差はどうか。

（回答）：建設系は他の学科に比べて高く2割近いが、今年度は3割を超えた。

正式な統計はないが、試験の成績は女性の方が良い傾向にあるものの、最近は女性の数

も増えてきているので、成績の二極化もみられる。

(質問) : 下関北九州道路は当初、関門橋の老朽化や交通容量が増えたために事業が必要と認識していたが、本日の説明だと広域道路の整備が目的に代わっているがその経緯はどうか。

(回答) : 民主党時代に厳しい評価を受けた後、広域的な利用も事業の目的として加えるようになったと聞いている。

(質問) : 学生の研究室への志向について、過去はコンクリートや構造が強く、計画系は弱いと記憶しているが、現在の学生はどうか。

(回答) : 設計コンサルへの志望もあり、計画系にも人気はある。計画系は道路予算が多いこともあって分野も広く人気はある。

(質問) : 近年、建設業界ではDX、AI、ICTが流行しているが、大学での取り組みはどうか。教育における基礎分野も重要なため、やはり基礎分野の教育が中心になっているのか。

(回答) : 学部の講義枠も減少し、必修科目ではやることができていない現状がある。3年以降の選択では入ってくるかもしれないが、全体では取り組みは薄いと考えている。研究室ではAI処理を取り入れたものもあるので個別の対応となっている。

情報系の方は技術の動きが早い、裏を返せば現在の技術がすぐに陳腐化することでもあり、教育では連想力を伸ばすことが必要と考え、講義で取り入れるようにしている。

4. 九工大技術士会説明 15:15~15:40

九工大技術士会 副会長 森 康 晴 氏 (開48卒) より九工大技術士会活動の説明が行われた。

現在、九工大、特に建設系の技術士の数が減少し、その状況を危惧している。九工大技術士会は無料で指導していくので、後輩を含めた周知と技術士会への参加の要望が出された。分会より、会員への周知の際に技術士会の活動に関する情報提供を申し入れた。

質疑の中で、技術士会に限らず同窓会への若手の参加への取り組みについての話題があった。

九州では建設系同窓会を設立し各卒業年で幹事を指名してはじめて多くの参加者がいるが、同じような取り組みを進めてはどうかという意見も出た。

分会も若手の参加を即すため、企業幹事を決め先輩を通じた働きかけを行っている。本日もそうだが、オンラインを併用したハイブリッドで参加機会を増やすなどの取り組みが必要であることを参加者で認識した。

5. 懇親会

- ・東京都の緊急事態宣言発出に伴い懇親会は中止とした。

(出席者名簿は次頁)

2021年度総会・春季講演会 出席者名簿（15名）

卒業年	お名前	備考	卒業年	お名前	備考
(鳳龍クラブ参加)			(Zoomによるオンライン参加)		
開 41	足立 二雄	幹事	—	寺町 賢一	講師
開 46	柿原 利孝	分会長	開 45	高宮 正英	
開 50	樋口 孝憲		開 45	安田 進	
開 51	小郷 政弘	会計	開 46	勝井 秀博	
開 62	岡田 光志	幹事	開 47	吉岡 民夫	
開 H01	江崎 純	幹事	開 48	森 康晴	技術士会
設 H08	真柴 浩	幹事長	開 49	三好 純一郎	
(以下、余白)			開 58	山口 省吾	

鉦山・建設系分会 幹事会（令和3年度 第2回） 議事録（'21年 3/29作成）

- ・日 時：令和3年 3月27日（土） 10：30～11：20
- ・場 所：明専会東京センター／九州工大鳳龍クラブ
- ・議 事：総会等資料の送付作業、後の案内状送付、幹事顧問制度、幹事役割分担
- ・資 料：分会総会・春季講演会・東京支部講演会案内状および鳳龍クラブ賛助会員入会のお願い
- ・出席者：柿原、真柴、足立、小郷、岡田、江崎（6名）

- 作業 1. 分会総会・講演会・懇親会および東京支部講演会案内の発送について
- ・上記案内状等81通を封書詰めの上、発送した。
 - ・幹事長より、後日、メールアドレス届者宛、メール配信する。
 - ・若手のメール会員には、Facebookも有効なので、竹林企画委員にお願いして、Facebook、”めいせんカフェ東京”でも発信をする。（真柴幹事長にお願いする）

議事 1. その他

1) 会員名簿の整備

- ・昨年の秋季講演会参加者や企業幹事の俵さん、日鉄環境エンジニアリングの松村さんなど会員名簿に記載の無い方がいたので、内容を確認の上、整備することを確認した。
- ・会員名簿には平成卒業者が少ないため、企業幹事等の伝手により増やしていくことを確認した。

(以 上)

鉾山・建設系分会 幹事会（令和3年度 第1回） 議事録（'21 2/5作成）

- ・日 時：令和 3年 1月 31日（日） 10：00 ～11：25
- ・場 所：Zoomによるリモート会議
- ・議 事：明専会報インタビュー、年間行事予定、総会・春季講演会等、その他
- ・資 料：鉾山・建設系分会 幹事会（令和 3 年度 第1回） 議事次第
明専会報インタビューシリーズ について（別紙1）
令和3年度の年間行事予定について（別紙2）
- ・出席者：柿原、真柴、足立、岡田、江崎（5名）

議事1. 明専 会報インタビューシリーズ について（別紙1）

- ・関東学院大学規矩学長へのインタビュー（令和3年7・8号に掲載予定）について
分会でインタビューの実施に向けて今後とも積極的に支援していくものとし、
手順、日程等確認した。
- ・今後、柿原、真柴、足立、岡田で対応する。

議事2. 令和3年度の年間行事予定について（別紙2）

- ・別紙2資料により支部と合わせて以下の行事予定を確認した。
3月 中旬 幹事会（第2回 総会案内等の発送作業）
4月17日（土） 東京支部 春季講演会・支部交流会
6月12日（土） 総会・春季講演会・新人歓迎会・懇親会
幹事会（第3回 秋季講演会の講師について、他）
9月下旬 幹事会（第4回 講演会案内等の発送作業）
10月2日（土） 東京支部 秋季講演会
11月上旬 秋季講演会・懇親会

議事3. 総会・春季講演会・新人歓迎会及び東京支部講演会案内の発送について

1) 講演会の講師

- ・春季講演会の講師は、寺町先生に打診する。
→2/1にご了承いただく。
- ・秋季講演会は、東亜建設工業を第一候補として関係者に打診する。
→2/1に候補者に内諾を得る。

2) 資料の作成、印刷 の分担

- 以下の分担を確認した。
- ・講師へのお願いと調整→柿原、真柴
- ・分会名簿の更新、送付部数の決定→真柴
- ・分会総会・講演会・新人歓迎会案内状の作成、印刷→岡田

- ・支部春季講演会案内状の印刷→足立
- ・出欠葉書の宛名、裏面印刷→江崎
- ・分会費振込票の準備、送付用封筒の宛名印刷→小郷

3) 分会総会・講演会・新人歓迎会資料の作成

- ・表紙、議事次第、総会審議等の資料については、分会長、幹事、会計、会計監査、で対応し、メール等で内容確認を行うことを確認した。

議事 4. 寄稿文について

- ・第1回については、打診を行なっている日隈さんへ幹事長より執筆の再確認を行う。
(難しい場合は、足立さんにお問い合わせする。)
- ・寄稿文の掲載は四半期に1回更新し、分会関係者にメール等で告知する。
- ・テーマは『シリーズ：語り継ごう！技術は人なり』で良いことを確認した。

議題 5. その他

1) 鳳龍クラブ賛助会員への加入

- ・今年度も継続加入をすることを確認した。

2) 企業幹事について

- ・ピーエス三菱関係者にはご了解いただく。
- ・他社についても分会役員経験者を通じて打診する。

3) 明専会報のインタビューシリーズの対象者について

- ・建設系は工学部でもユニークな分野で、他の学科との交流・会員間の交流も薄いうえ、会員の活動情報が届きにくく、見落とされ勝ちである。
分会会員の中で、大活躍されている人を、発掘の上、積極的に紹介していくことを確認した。

(以 上)

●九州工業大学建設系同窓会について

鉱山・建設系分会では会員相互の交流、情報交換、そして懇親の場として 春と秋に講演会を開催しています。

私たちが日頃取り組んでいる道路・港湾・空港・鉄道や河川の整備あるいはビル建築等の土木・建築の各種のプロジェクトは、どれ一つをとっても同じものではありません。各々のプロジェクトはそれを施工する環境において、過去の事例等を踏まえ、自然的条件・社会的条件・経済的条件等に最適な構造物が計画され、設計され、造り上げられていくのです。その過程では、最良の資材や建設機械等を組み合わせ、各分野の優秀な技術者の知見を結集して、最高の技術力を活かしていくことが求められます。

そして、優良な社会資本を市民の皆様の利用に供して、持続ある社会の発展のため、後世の人のためになる国の遺産を造り上げる仕事に取り組んでいるのです。

在学中に折に触れ、恩師から、建設工学は『経験工学』であり、建設技術者は『人を動かす』技術者であると諭された所以であります。

分会では、このような会員の皆様の日頃のお仕事に少しでもお役に立てることが出来たらと、年2回 一春の年次総会開催時と秋に一講演会を開催して、母校の恩師や会員の皆様方から

- ①国土整備計画、地域開発計画、 ②まち造りの推進、 ③技術上の最新の課題、
- ④話題の大プロジェクトの概況、 ⑤会員の現場経験談

等に関する話題提供を頂き、参加者間での自由闊達な議論を展開しております。

会員の皆様多数の参加を頂いて、参加者相互の交流・懇親を深め、国土や地域社会のあり方、技術力の向上方策、プロジェクトの安全で効率的な完遂のための組織や人材の活用のあり方等を論じて、我が国の市民生活の向上、経済・産業の発展を支える社会資本の整備に責任を持つ建設技術者としての矜持を高めていって貰いたいと願っています。

鉱山・建設系分会 春・秋季講演会の実施状況

開催年月日	講師名 (敬称略)	演題	参加者
22年 6月 5日(土)	加藤 武(開41)	海外建設工事の実情	12名
23年 6月 4日(土)	勝井秀博(開46)	英虞湾における水質浄化の取組 —浚渫土砂を用いた人工干潟の造成—	7
23年11月12日(土)	柿崎利孝(開46)	私の海外工事 国際建設技術協会 小沢海外功労賞を受賞して	9
24年 4月21日(土) (東京支部春季講演会)	安田 進(開45)	東京湾岸の住宅地を襲った液状化被害 :東日本大震災の特殊要因と復旧への問題点	20 (75)
24年 5月26日(土)	堀越公博(設建H08)	北九州市の河川事業の概要について	8

24年12月16日(土)	鶴田秀典(開42)	電気通信事業に携わって40年	8
25年 6月22日(土)	森 康晴(開48)	建設コンサルタント事業に携わって40年	10
25年12月 7日(土)	伊藤東洋男(開41)	二つの大震災に関係して思うこと	12
26年 6月 7日(土)	前野弘幸(開62)	ヒューマンエラーとの戦い	12
26年11月 8日(土)	幸佐賢二(開52)	東日本大震災による被害について	16
	竹田宣典(開57)	海水を利用したコンクリートへの挑戦	
27年 6月13日(土)	永瀬英生(開55)	液化化に関する研究の現状と課題について	18
27年11月14日(土)	重枝未玲(設建H10)	気候変動に適応した水災害に対する 防災・減災技術について	18
28年 6月18日(土)	佐久間治 (特別会員)	建築学コース概要及び 建築デザイン研究室の活動について	14
28年11月 2日(水)	ローカムサイ チンダー(建社H23)	目に見えない豊かさがあふれる国、 ラオスの紹介	11
29年 6月10日(土)	(講師の都合で中止、意見交換会に変更) 話 題: 豊洲移転問題を建設技術者としてどう考えるか		15
29年10月14日(土)	高宮正英(開45)	第二名神 木曾揖斐プロジェクト -世界初の構造形式 複合エクストラード橋-	18
30年 6月 9日(土)	日比野誠(設建H06)	学科の近況とコン研の研究と思い出	25
30年 6月 9日(土)	村沢 譲 (開46)	地盤ひとすじ・半世紀	20
令和元年 6月15日(土)	鬼束幸樹(設建H04)	学科の近況と 研究内容(魚のすみやすい川づくり)について	21
令和元年11月 9日(土)	吉村重敏(開51)	地元歴史二題の発信「漢方医尾台榕堂と縄文火焰 型土器」 新潟県十日町市議会議員	22
令和2年6月13日(土) (東京支部春季講演会)	安田 進(開45)	新型コロナの影響により止む無く“秋季講演会”に延 期とさせて頂きました。	
令和2年11月 未定 (東京支部秋季講演会)	安田 進(開45)	(未定)	

※今後、新型コロナ禍の為、ご案内が HP または e-mail となることもございますので
ご容赦ください。

注) 講師名の中で太字は九州工業大学教授等

安田先生の講演の参加者：上段は分会、下段 () 内は支部全体

●建設系の同窓生は、隔年に、北九州に集まっています。

鉱山及び建設系の学部・大学院の卒業・修了者は、隔年に、学びの地・北九州に集い、親睦を深め、情報の交換を行っております。

平成5年11月に第1回同窓会が開催されて以来、最近では隔年に開催されており、平成30年で、12回目を数えております。毎回『建設系』の名の下に、全国各地から150名近くの同窓生が集い、旧交を温めております。

昨年(平成30年)11月の第12回同窓会には、分会から10名近い会員が参加しました。

来年(平成31年)11月には第13回同窓会が予定されています。分会員の皆様、多数、北九州へ駆けつけられることを期待しております。

【分会は、下記の者でお世話いたしております】

●分会役員名簿

分会長	柿原利之	(開46)	本部代議員
幹事長(兼)	岡田光志	(開62)	本部代議員
幹事	足立二雄	(開41)	
同(会計担当)	小郷政弘	(開51)	
同(書記担当)	岡田光志	(開62)	本部代議員
同(HP担当)	江崎純	(開H01)	
同	幸田英司	(建社H16)	

幹事若干名の増員を検討中です。

特に、平成年代、建築学コース卒の方の自薦・他薦を求めています。

●お問い合わせ・連絡先

分会へのご要望、お問い合わせ、行事へのご参加申し込み等は下記へお寄せください。

《ご連絡先》 新幹事長 岡田 光志 (開62) 令和3年9月1日より

メールアドレス : ko_okada@toa-const.co.jp